



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 教授

植田 恵 Ueda Megumi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



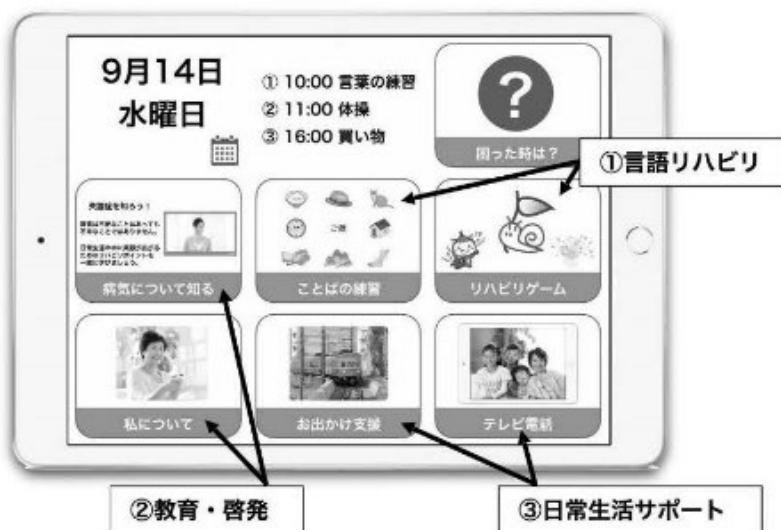
キーワード：原発性進行性失語・リハビリテーション・タブレット端末・言語聴覚士

研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

アルツハイマー型認知症などと同じ神経変性疾患を原因とする原発性進行性失語症（PPA； Primary Progressive Aphasia）は数年から十数年をかけてゆっくり進行するため、長期経過を見据えた支援が必要である。PPA の主症状はコミュニケーション障害であり、言語聴覚士（ST）の専門的な介入が必須だが、適切な介入法もサービス提供のための手段も確立しておらず十分なサービスが提供されているとはいえない。また PPA の場合は、疾患の進行に伴い認知症に移行するため、医療・介護の多職種が関与することになる。ゆえに関わる人や場が変わっても継続したサービスを受けられる体制作りが必要であり、これまでの研究から患者自身の情報や学習ツールを搭載したタブレット端末を使うことが有益ではないかと考えている。

そこで本研究では、ST の PPA への関わりの実態調査と本人・家族を対象としたインタビュー調査によって現状の問題点と必要とされるサービスを明らかにし、PPA 患者のための標準的な介入法をモデル化して、タブレット端末を用いて提供することを試みる。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究の成果は、同じく長期経過を辿る認知症や進行性難病の方への支援にも汎用できる可能性がある。また今後、日常的に IT 機器を使う世代が高齢者になっていく社会においては、特別な福祉機器ではなく、使い慣れたツールを患者の日常生活支援やリハビリテーションの手段として柔軟に使用していくことを提案できる。これにより、高齢になっても認知症になっても継続して使えるやさしい IT 機器の開発に繋がることが期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- 1) 植田恵, 高山豊: 意味型原発性進行性失語 (svPPA) 患者の長期呼称訓練の有用性と限界の検討. 高次脳機能研究, 43: 40, 2023
- 2) 飯干紀代子, 植田恵, 黒川容輔ほか: 認知症に対する言語聴覚士のかかわりに関するアンケート (第 1 報) 評価と介入の現状. 言語聴覚研究, 17: 162-170, 2020
- 3) 植田恵: 認知症 原発性進行性失語の臨床. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 55; 特別号, S384, 2018